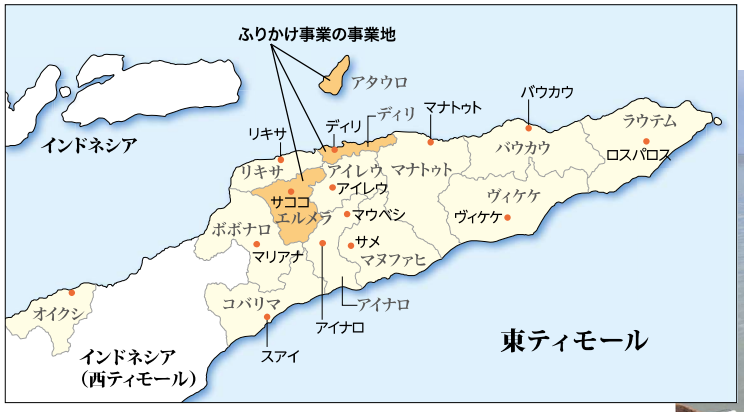
2019年6月

民際協力ニュース

パルシック ニュース VOL.34

パルシック PARC Inter-peoples' Cooperation

東ティモールの子どもたちに おいしく栄養のある食事を



ふりかけ事業の事業地地図

アタウロ島の漁師

2002年の東ティモール独立以後、パルシックは農村地域のコーヒー生産者組合や女性グループの経済活動支援をしてきました。これらの活動を通じて、東ティモールには食材が豊富にあるにもかかわらず、国内流通網が未発達のため、沿岸部で捕れる魚は山間部ではまったく食されていない、西部で豊富に採れるインゲン豆が東部では貴重品という状況にあることが分かってきました。

東ティモールでは、5歳未満の子どもの半分が発育不良にあり、5歳未満の子どもの3人に1人、14～60歳の女性の5人に2人が貧血症状にあります。一方で飽食が進む首都ディリでは、肥満や生活習慣病の罹患率が上昇しています。こうした栄養問題を解決するため、東ティモールの保健セクターは2012年以降、妊産婦や乳幼児への栄養補給食品の配布や栄養に関する知識の普及など、国民の栄養状態の改善に取り組んできました。しかし農村の人びとの暮らしを見ると、依然として食事とはお腹一杯に食べることであり、現金の乏しい時期にはイモ類でしのぐなど、経済的理由も伴って栄養への配慮はなかなか難しいのが実情です。

これまでの活動を通じて農村部での食生活を目の当たりにし、パルシックは2019年1月から「ふりかけ普及と食生活改善による栄養改善事業」を開始しました。首都ディリの対岸25キロメートルにあるアタウロ島の漁業組合女性部会と協働し、干し魚やモリンガ、ゴマといった、地域でとれる食材を利用したふりかけ生産を開始します。そして、このふりかけをディリや山間部の学校給食に導入すると同時に、身近な食材を使った、おいしく栄養価の高いレシピを動画で紹介し、学校給食や家庭の食卓に広く役立ててもらうのが狙いです。

子どもたちの発育状況に劇的な変化がみられるようになるまでには時間がかかりますが、今は、何をどう調理したらおいしく栄養をとることができるのかを、ティモール人スタッフと一緒に考える作業を楽しんでいます。

（伊藤　淳子）

（この事業は日本NGO連携無償資金協力の助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）

目次

東ティモール　東ティモールの子どもたちにおいしく栄養のある食事を…… 1
パレスチナ　イスラエル総選挙のゆくえとパレスチナ／**西岸**　今年はゴミのリサイクルに挑戦…… 2
シリア難民支援　子どもたちの教育支援、食糧支援…… 3
インドネシア　スラウェシ島地震・津波被災者支援：震災後半年を振り返って…… 3
パルシックの民際協力とフェアトレード…… 4–5
フェアトレード　ハーブティー　ハイビスカス栽培の現場から／アールグレイ紅茶の産地へ！　ツアー報告／東ティモール報告会を開催…… 6
パルシックのフェアトレード商品／ちょっと寄り道♪フェアトレードなお店…… 7
愛媛　西日本豪雨被災者支援　「足湯」でつなぐ被災地～西予市と日田市～…… 8
パルシックからのお知らせ…… 8

イスラエル総選挙のゆくえとパレスチナ

2019年4月10日、パレスチナではわずかな緊張感とともに始まり、「やっぱりか」という失望とともに終わりました。それでも予想していたような大きな事件はなく、無事に乗り切れたような気がしていました。

4年ぶりのイスラエル議会（一院制）総選挙。汚職問題で不利とされていた下馬評を覆し、現職のネタニヤフ首相が率いるリクード党が僅差で選挙を制し、再選を果たしました。今回で5期目、通算17年間首相を務めることになるネタニヤフ首相ですが、対パレスチナ和平においては強硬右派。再選すれば西岸地区にある入植地をイスラエルに併合する意向を示していました。これを、親イスラエルを押し出すトランプ政権が全面的にバックアップしています。

断食月まで数日となった5月3日。ガザ市民がおびただしい死傷者を出しながら1年以上継続している「帰還の大行進」デモでの衝突とその後の空爆で、4名が犠牲になったことをきっかけに、ガザからのロケット弾とイスラエルの空爆の応酬が始まりました。たった3日のうちに、パレスチナ側死者29名（子ども4名）、イスラエル側死者4名、多数の怪我人と41軒の住宅を含む広範な物的損害が出る事態となりました。こうした短期間の集中的な暴力のエスカレートは、昨年も頻繁に起こっています。5月は、昨年60名以上の犠牲者を出したイスラエルの「建国記念日」と「ナクバの日*」が続きます。神聖な慈悲の月、断食月を皆が無事に終えられるよう切に願います。（盛田）

*1948年イスラエル建国に伴うパレスチナ難民の発生と離散を記憶する日。

「ナクバの日」の横断幕。5月15日「帰還の大行進」の案内

●ガザでは、日本NGO連携無償資金協力の助成と、皆さまからのご寄付で酪農による女性の生計支援を実施しています。事業の概要は、5頁で紹介しています。

西岸　今年はゴミのリサイクルに挑戦

西岸事業は4年目を迎えました。ナブルス県ジャマイン村で3年間生ゴミ堆肥づくりを行った経験を活かし、2019年はナブルス県北アシーラ村にて、同じく循環型社会促進事業を開始しました。今年のキーワードはゴミの分別とリサイクル。生ゴミ、ペットボトルや缶ビン、紙、プラスチックの4種類の分別ボックスを町中に設置し、分別後の生ゴミはオリーブの搾りかすなど地域の有機ゴミと合わせて有機堆肥づくりへ、残りの資源ゴミはリサイクル業者に引き渡し、新たな資材へと生まれ変わらせます。

ここパレスチナでは、ゴミのリサイクル率は1パーセントにも満たず、ゴミを種別に分けて捨てるという概念が全くと言っていいほど根付いていません。ゴミが有益な資源に生まれ変わるよう、現在西岸各地のリサイクル業者を訪問して調査しています。また参加住民の理解を促すため、どのようなデザインの分別ボックスにするのか、分別方法は明確か、どの地区で試験実施をするのが良いかなど、地元行政との話し合いを進めています。例年行っている植樹活動とも連動し、ゴミの投棄場となる空き地や生活排水の垂れ流しが問題となっている渓谷沿いの地域に植林するなど、住民の環境意識の啓発に努めます。（関口）

（この事業は地球環境基金、緑の募金からの助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）

プラスチックのリサイクル工場を視察

人びとの声

北アシーラ村の農家 ラミ・ヤスィーンさん

1983年に西岸地区ナブルス県北アシーラに生まれ、大学では会計を学びました。本業は農家ですが、町役場を通して、造園や植樹、農業省の仕事にも関わっています。去年の植樹活動にも参加し、オリーブ以外にも数種の果樹を植えました。アシーラで農業の幅が広がっていくことを期待しながら、毎日手入れをしています。今回の事業は、農業に欠かせない堆肥づくり、住民の新しい仕事の機会にも繋がるため嬉しいです。アシーラが他の地域のお手本となるように私も事業を応援していきます。

息子さんとラミさん（右）

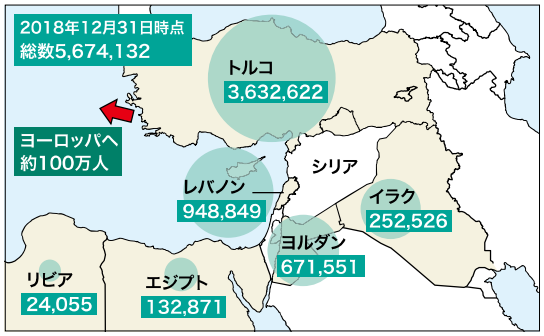
シリア難民支援　子どもたちの教育支援、食糧支援

シリア紛争の勃発から8年目を迎えますが、今もなお周辺国に避難し困難な生活を送る人びとは500万人以上に上ります。シリア国内の大部分で紛争は収束しつつありますが、政府と反政府陣営の間での政治的解決は先行き不透明で、「政治的解決なしには帰還できない」と多くのシリア難民は口にしています。

シリアの隣国で小国のレバノンには約95万人のシリア難民が生活していると推計されており、その半数以上が18歳以下の子どもたちです。レバノン政府はシリア難民を公立学校で受け入れる方針ですが、収容できる人数に限りがあることから、シリア難民の子どもの2人に1人はレバノンの公立学校に通学できていません。パルシックは現地で活動するNGOのSawa for Development & Aidと提携し、2017年10月に仮設の教育センターをベカー県バル・エリアス市で開校しました。5歳から12歳の子どもたちが通い、「友だちに会えるから学校は楽しい」という声を子どもたちからよく聞きます。子どもたちが必要とするこの教育センターが勉強の場としてだけではなく、紛争で失ってしまった「子どもの時間」を楽しむ場となるように配慮した運営を2019年度も続けていきます。

シリア国内では、2018年から帰還民や国内避難民を対象に食糧支援活動を開始し、2019年も引き続き活動を行っていきます。インフラがほとんど破壊された上に、昨年は近年まれにみる干ばつにより通常の3分の1しか野菜や穀物が育たず、配布用食糧の調達も難しい状況ですが、提携団体と力を合わせて被災したシリア人に対して食糧配布を続けていきたいと思っています。（大野木）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）



UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）に登録されたシリア国外にいるシリア難民の数

スクールバスで教育センターに通う子どもたち

スラウェシ島地震・津波被災者支援：震災後半年を振り返って

2018年9月末にスラウェシ島中部でM7・5の地震・津波による大規模な被害の発生後、パルシックが緊急支援のために現地入りしてから早くも半年が経ちました。当初は現地提携団体の協力を得ながら物資を必要とする村を選定し、食糧や生活用品を15村で配布しました。並行して、シギ県ソウロウェ村では12月下旬から震災後に不安を抱く子どもたちに向けて、安心して遊べる居場所を運営し、この活動は現在も続けています。

2019年1月からは仮設住宅建設用資材の配布を始めました。パルシックで伝統家屋建設のための資材を配布し、住民の手によって建設するという事業です。事前調査時に長屋タイプの仮設住宅に住む被災者からは、「日中暑くていられない」、「天井が筒抜けでプライバシーがない」との不満の声を聞き、伝統家屋様式を選び被災者からは大変喜ばれています。また、震災時に多くの木造家屋が損壊しなかったため、伝統家屋は再評価されています。インドネシア政府は復興期に移行したとの見解ですが、いまだにテントや半壊家屋に住む被災者が多いことから、仮設住宅の建設資材の配布を続け、まずは被災者が安心して暮らせる場所の確保に努めます。（飯田彰、松村多悠子）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）

建設された伝統家屋様式の仮設住宅

人びとの声

ウマルさん（ナモ村ラオネ地区）

2018年9月の地震以後、半壊した家の台所部分にシートを張って暮らしていました。家族に加え、同じく被災した親戚も一緒に過ごすことが多く、寝る時など非常に狭かったです。余震などが起こると「重い壁材が崩れてくるのでは」と怖くてパニックになっていました。仮設住宅ができてからは、部屋を広々使え、2部屋に分かれているのでプライバシーも保てますし、木材を使っているので余震時にパニックになることもなくなりました。安心して過ごせるようになり、とてもありがたいと思っています。

孫のアル君を抱っこするウマルさん

パルシックの民際協力とフェアトレード

パルシックの民際協力活動は、外国の占領や侵略、紛争、自然災害によって
自立的な発展を阻まれた人びとが、暮らしを取り戻すことへの支援を重視しています。
活動を通じてできあがった産品は、フェアトレード商品として販売し、生産者の暮らしを守ります。

レバノン (p.3)

シリア難民の子どもたちへの教育支援と越冬支援を行っています。

シリア (p.3)

国内避難民や帰還民への食糧支援を実施しています。(写真は提携団体が撮影)

スリランカ (p.6左下)

●北部ジャフナでゲストハウスの運営、タミル文化を伝えるツアーの企画実施、タミル料理レストランを運営しています。
●南部デニヤヤでは、紅茶の有機転換支援のほか、シンハラージャ森林保護区訪問、紅茶茶摘み体験などのエコツアーを企画実施しています。
★北部、南部へのツアーにご興味のある方は東京事務所にお問い合わせください。

パレスチナ(ガザ、西岸) (p.2)

●ガザ地区南部の農村で、酪農を通じた女性たちの生計支援を行っています。2年目に入り、女性たちはチーズやヨーグルトを作るとともに、家畜飼料を生産しています。女性グループリーダーの1人ヤスミンさんは「ベターじゃなくてベストな品質のチーズを作って、しっかり市場に売り込めるようになりたいわ」と話し、活動に熱心に参加しています。
●西岸では、ナブルス県北アシーラ郡で、ゴミ分別から始める環境意識の醸成と、有機ゴミを用いた堆肥づくりに取り組んでいます。

マレーシア：漁民グループの環境保全支援と民際教育

ペナンの漁民グループ PIFWA による植林活動を支援しています。PIFWA はこれまでに約20万本のマングローブの植樹を行いました。PIFWA の植林活動には、ペナンに工場を持つグローバル企業の社員のほか、大学生や高校生も参加し、PIFWA の教育センターを多くの人が環境教育の場として訪れるようになっています。日本からも大学生や高校生が訪れ、地元の学生とともに植林を体験するなど、環境教育、交流の場として、定着しつつあります。

愛媛
西日本豪雨被災者支援 (p.8上段)

居場所づくり：みんかふぇ

コミュニティ・カフェ「みんかふぇ」をオープンして約1年、子ども食堂を開始して10か月が過ぎました。この間たくさんの楽しいこと、反省したこと、学んだことがありました。子どもも大人も日々、色々な想いで過ごしていることを改めて知りました。利用者が食事をしながら愚痴や悩みを吐露して帰っていくこともあります。そして最近は、放課後の居場所として子どもたちがみんかふぇを利用してくれるようになりました。宿題をしたり、ゲームをしたり、絵を描いたり好き好きに時間を過ごしています。ボランティアの方々のお力を借りながら、段々と地域の人びとに受け入れられていることを実感しています。

(この事業は子供の未来応援基金と、皆さまからのご寄付で実施しています。)

東京　フェアトレード (p.6,7)

フェアトレード商品の販売管理、普及活動を行っています。

広報 (p.8)

活動に関する情報発信やイベント参加、報告会の開催などを行っています。

インドネシア (p.3)
スラウェシ島地震津波被災者支援

仮設住宅の建設支援と子どもの居場所を運営しています。

東ティモール (p.1, 6-7)

有機コーヒーやハーブティーの生産者支援のほか、ふりかけ事業、アグロフォレストリー事業を実施しています。

ハーブティー　ハイビスカス栽培の現場から～ロザさん

3年前にハーブティー「アロマ・ティモール」シリーズに加わったハイビスカス。

商品開発の際、試験栽培に積極的に協力してくれたのがアイナロ県マウベシ郡の女性グループ「ハノイン・バ・オイン」のロザさんです。マウベシの町から徒歩で3時間以上もかかるハトゥカデ集落に住んでいるロザさんは、12人の子どもを育て上げ、ハイビスカスの栽培にハチミツ加工、畑仕事と、日々忙しくしています。

彼女のハイビスカス栽培は、家のすぐそばに作った2平方メートル余りの家庭菜園から始まり、今では家から徒歩1時間くらい離れた畑も含めて1.5ヘクタールほどに広がりました。試験栽培をしていく中で2期作が可能なこと、トウモロコシと混栽すると虫がつきにくくなることなど、マウベシの土地や気候に合った方法を確立して、今では年間30キロも栽培しています。毎年の有機JAS認証監査を、ロザさんは「自慢の畑を検査員に堂々と紹介するチャンス」と、心待ちにしています。

「ハイビスカス30キロの生産って、そんなに大変なこと？」と思われそうですが、マウベシの山間部では痩せた土壌の傾斜地に畑を作り、栽培から収穫、乾燥加工まで全ての工程が手作業で行われるため、平地での大規模農業生産と比べると想像以上に大変です。家族のサポートなしに1人で30キロものハイビスカスの栽培はできません。ロザさんが得るハーブティーからの収入は家計を支えているので、夫も協力的です。ロザさんのお宅にお邪魔すると、アボカドリーフを煮出したお茶、トマトとバジルのチリソース、レモングラスで香りをつけたキャッサバを振舞ってくれたりします。どれもその年に収穫した旬のもので、塩味とハーブでシンプルに味付けした食事が遠路訪問した体に染み入ります。

日本では未発売ですが、アロマ・ティモールのローゼル（ハイビスカス）ソルトは現地で人気商品の1つです。ハイビスカスティーの出がらしと塩を混ぜることで作ることができるローゼルの塩漬けは、赤シソのような酸味があり、ごはんに混ぜるとまるで「ゆかり」のような味になります。皆さんもハイビスカスティーを飲まれた後に、試してみてください。

（林　知美）

▲ロザさん（右）とハイビスカスの畑

▲ハイビスカス（がく）を収穫している様子

▶フレッシュハイビスカスティーが飲めるのは、農家さんの特権！

ツアー報告

アールグレイ紅茶の産地へ！
持続可能な紅茶づくりを支える「有機農業ボランティアツアー」

訪 問 地：スリランカ南部マータラ県デニヤヤ
開 催 日：2019年3月16日―3月24日　8泊9日
参加者数：6名

ボランティア活動を終えた畑での1枚

参加者の声

スリランカ南部デニヤヤで有機農業ボランティアツアーに参加した。有機栽培はまだ主流ではないことを知った。手間がかかるのだ。

でも世界の消費者が求めれば付加価値は上がる。農民の収入も増える。有機農法に切り替える農民も増える。だから応援したい。

今回のツアーでは、参加者の仲間とともに、草取り、苗木植え、茶葉の摘み取り、牛ふんの堆肥作りを体験した。参加者は農業体験のない都会人がほとんど。でも持続可能な世界を願って集まった“つわもの”。そのへっぴり腰の連帯にスリランカの農民たちも笑う。地球は家族であると私は実感した。

（参加者　杉本恵二）

4月に大阪・東京で、東ティモール集会を開催

4/5（金）［大阪］ドーンセンターにて「コーヒー生産者との歩み」
4/12（土）［東京］連合会館にて「住民投票から20年」

東ティモール事務所代表の伊藤淳子の一時帰国に合わせ、報告会を開催しました。普段は東京開催のみですが、今回は過去のコーヒーツアー参加者から「大阪でもぜひ」との要望が上がり、東京と大阪の2か所での開催となりました。どちらの会にも、古くから東ティモールの支援に携わっている方のほか、コーヒー業界の方、学生さんなど多くの方にお越しいただきました。

大阪集会では、東ティモールのコーヒー生産者協同組合「コカマウ」のコーヒー加工技術の改善、組合運営の強化、2017年に発足した「東ティモールコーヒー協会」の取り組みなど、現地からの生の声を伝えました。参加者からは「現場の苦労が分かった」等の感想が聞かれました。

東京集会では、1999年の住民投票から20年で、東ティモールの経済や産業、教育がどのように変化し、これからの課題は何なのか、その中でパルシックがどのような事業を実施して課題に取り組んできたかということについて話しました。東ティモールで家族と暮らす伊藤ならではの生活実感に即した話で、参加者たちは東ティモールのことをより身近に感じ、生き生きとした表情で話を聞いていました。

最近はメディアで取り上げられることがめっきり少なくなった東ティモールですが、定期的な報告会等を通じて、これからも日本のみなさんに現状を伝えていきます。

早稲田大学山田満氏（左）にも「アジアの中の東ティモール―独立と開発―」をテーマにお話しいただきました。

パルシックのフェアトレード商品

＊価格は税込です

カフェ・ティモール

粉・豆	各200g	756円
ドリップタイプ	10g×10個	864円
リキッドコーヒー	1L	702円

コーヒーゼリー
280円

アロマ・ティモールハーブティー

ツボクサ＆ミント	各30g	各756円
月桃		
レモングラス		
アボカドリーフ＆ライムリーフ		
ハイビスカス	20g	

アールグレイ紅茶羊羹
864円

アールグレイ紅茶・ルフナ紅茶

ティーバッグ	2g×25p	各756円
リーフ	100g	

初夏におすすめハーブティーのご紹介

本格的な夏の訪れを間近に、体の調子が崩れがちなこれからの季節。心と体の調子を整えるのにハーブティーはいかがですか？　東ティモールで古くから伝統薬として利用されてきたハーブを集めた「アロマ・ティモール」のご紹介です。

ハイビスカス

古くから美容と健康増進のお茶として愛飲されてきたハイビスカス。名前の由来はエジプトの美の神様「ヒビス」。ビタミンCやアントシアニンが含まれるので、生活習慣病の予防や夏バテ対策にもお勧めです。あのアベベ選手もマラソン時の補給ドリンクとしてハイビスカスティーを飲んでいたそうです。

●小さじ2杯分のハーブに熱湯を注ぎ、3分程度蒸らします。蜂蜜を入れたり、冷たくして炭酸水で割って飲むのもおすすめです。

ツボクサ＆ミント

血の巡りを良くすると言われるツボクサは、アーユルヴェーダなどのアジアの伝統医学で、非常に重要な役割を果たしています。むくみや物忘れの防止にも効くと言われます。ミントの香りも相まって、暑さでぼーっとした頭をしゃっきり目覚めさせてくれそうです。

●小さじ1杯分のハーブに熱湯を注ぎ、3分程度蒸らします。お好みで冷たくしてお召し上がりください。

飲み方のポイント（1杯分）

ちょっと寄り道♪ フェアトレードなお店

郡馬県桐生市に2018年にオープンしたSmile Forest Shop。お店のコンセプトは、森や自然になるべく負担をかけない商品を広めること。店内には日本では見かけることの少ないスリランカ産のオーガニック＆フェアトレードの商品が並びます。ひと際目を引くのは有機スパイス、ナッツ、ハーブティーなどの量り売りコーナーです。スリランカ出身の店長チャナキャさんは「本当に良い商品を、お客さんに必要な量だけ買ってもらいたい。また、パッケージがなければゴミが減り、値段も下がり、みんながスマイルになるよね」と言います。お店にはカフェコーナーもあり、紅茶やフレッシュジュースが飲めます。お近くにいらした際は、ぜひお立ち寄りください。

木のぬくもりがほっとする店内

オーナーの山中さんとチャナキャさん

オーガニックのお店＆カフェ
Smile Forest Shop
群馬県桐生市本町4-90-13
TEL 0277-47-7431
営業時間：10:00-18:00
定 休 日：日・月曜日

愛媛　西日本豪雨被災者支援「足湯」でつなぐ被災地～西予市と日田市～

2018年の7月初旬に起きた西日本豪雨から約1年が経とうとしています。この災害で甚大な被害を受けた、愛媛県西予市と宇和島市で支援活動を続けています。3月には、地元の「のむらスポーツクラブ」が実施するノルディックウォークの会場で足湯を実施しました。きっかけは、野村町での傾聴カフェ「ほっこりカフェ」に来たおばあちゃんの言葉でした。

「災害前は乙亥（おとい）会館の温泉に、週何回か行きよったんよ。温泉がないなって、私は脚が悪いけん、息子に頼まんと他の温泉には行けんのよ。」

野村町の名物の1つは167年の歴史がある「乙亥相撲」。相撲会場となっていた「乙亥会館」は宇和川のそばにあったため、西日本豪雨で地下と1階が壊滅的な被害を受けました。相撲施設は修繕予定ですが、併設していた温泉は閉鎖となり住民は肩を落としていました。

今回の足湯は、大分県日田市で九州北部豪雨被災者の支援活動を行う「ひちくボランティアセンター」の紹介で、日田市天ヶ瀬温泉から運ばれてきました。日田市のスタッフとのむらスポーツクラブのボランティアの交流もあり、和気あいあいと足湯につかる参加者の笑顔が印象的でした。野村町の方からは「5月の朝霧湖マラソンでも足湯をしてほしい」とのご要望があり、5月にも実施しました。

（シーバース 玲名）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と、皆さまからのご寄付で実施しています。）

たくさん歩いた脚に天ヶ瀬のお湯が気持ちいい～

子どもたちに囲まれておばちゃんもにっこり

東京事務所イベント報告（2019年1月～6月）

主催イベント

2月11日	東ティモール人ミュージシャン エゴ・レモスライブ
4月5日	東ティモール コーヒー生産者との20年の歩み
4月10日	PARCICトーク Cafe シリア難民支援編
4月12日	東ティモール 住民投票から20年
4月25日	PARCICトーク Cafe スラウェシ被災者支援編
5月15日	スリランカ緊急セミナーと祈りのつどい（アーユス様と共催）
5月18日	東ティモール・フェスタ2019（実行委員会として）
6月6日	PARCICトーク Cafe 愛媛被災者支援編

参加イベント

3月20日-26日	池袋東武デパート パン祭り
4月27日	メーデー中央大会
5月11日	世界フェアトレード・デーに SDGsを考えよう
5月26日	フェアトレードデー垂井

皆さまのご支援によって支えられています

パルシック会員募集

パルシックの趣旨に賛同し、総会等を通じてパルシックの活動に参加していただける会員、賛助会員を募集しています。

年会費

会　　員：10,000円
賛助会員：20,000円

入会ご希望の方は、東京事務所までお問い合わせください。

ご寄付のお願い

あなたの寄付で、パルシックの活動を支えてください。事業地の指定も可能です。みなさまの温かいご寄付をお待ちしています。

パルシックは認定NPO法人です。パルシックへのご寄付、募金は、確定申告によって所得税、法人税、相続税などの寄付金控除を受けることが出来ます。

●クレジットカードでの寄付（Webサイトより）
https://www.parcic.org/donation/donate/

クレジットカード寄付 QRコード

●郵便局からの寄付　郵便振替口座：00140-8-536957
口座名義：パルシック

●銀行からの寄付　三井住友銀行　神田支店（普）2384136
口座名義：特定非営利活動法人パルシック

※銀行からお振り込みの際は、ご住所とお名前をご一報ください。

PARCiC
特定非営利活動法人 パルシック（認定NPO法人）
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル1F
電話：03-3253-8990　Fax：03-6206-8906
メール：office@parcic.org　Web：https://www.parcic.org
オンラインショップ ParMarche（パルマルシェ）
https://parmarche.com
twitter（東京事務局）　@parcic_office
facebook　@parcic
Instagram　@parcic_tokyo